

# 富士山 BC

## 2015/05/17 山行報告



### 1. メンバー:久我(L)、小林(SL)、久我絵、飯野、大曾根

わたしの「12 Mt.Fuji Projekt (12か月すべての富士登頂を目指す)」と小林さんの富士山を滑りたいという願いが合わさって、5月の富士山へ滑りに行くことになりました。スキー3名、ボード2名という隊構成で入山してきました。

### 2. ルートと行程

ルートは富士宮口5合目から山頂まで。滑走のルート取りはピストンです。

### 3. 装備

厳冬期防寒装備一式(風で飛ばされることを念頭に予備装備の注意をそくす)、日帰り山スキー装備一式、ビーコン、ゾンデ、スコップ、カラビナ2、環付2、スリング長2、スリング短2、ピッケル、アイゼン、アプローチシューズ、チエルトの他に、火器類、アイススクリュー2、30mロープ1を共同装備として追加しました。

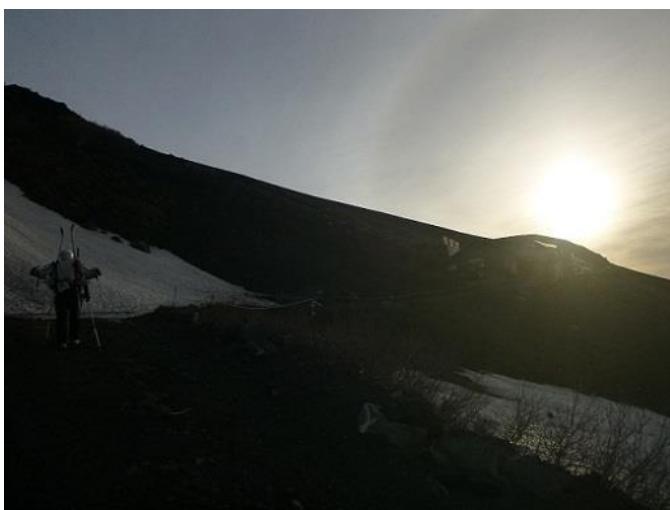
#### 4. 山行報告（晴れのちガス）

5月の富士登山を成功させるためには、兎にも角にも天気読みが重要です。当日の天気だけでなく、早い段階からの気温や風も気にする必要があります。問題は山頂直下の斜面が凍結しているかどうか。ここが一番重要な点で、後は当日の風の強さと気温です。

因みに、当日の天気は移動性高気圧に覆われたので日中ずっと晴れ予報。風は山頂の平均風速 20m（最速時）と強いが、富士山なら許容範囲。気温も最低-1度と悪くない。今年のわたしは本当に天気に恵まれている。



前日夜発で五合目にテントを張って仲間と仮眠。5時20分に富士宮口から入山。



今年は4月からの暖かさで、どこの山にも雪がないと聞くけど、それでも富士山は他とは違う別格の山だから、例年より少なくとも雪はやはりちゃんとありました。



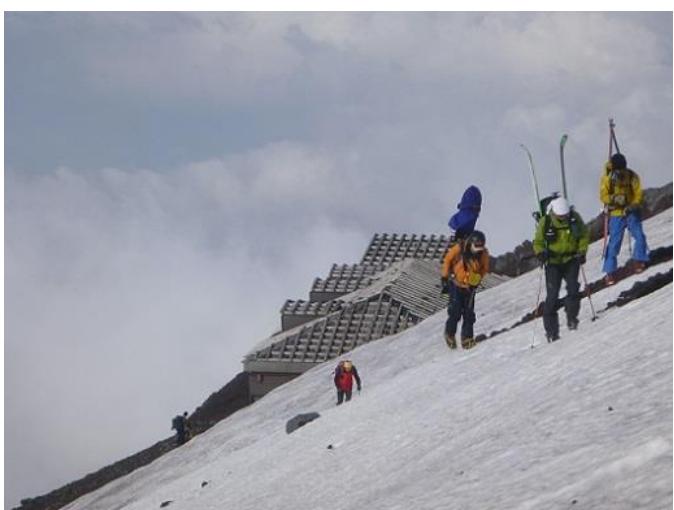
その雪は 6 合目を過ぎたあたりから登場し、無理すれば雪の上を登っていけます。わたしは滑走面を調べるために、早々とアイゼン付けて雪の上。他メンバーは 7 合目手前まで夏道を行きます。



朝 6:00 の富士山の雪は波打った状態のままカチカチに凍っていました。こんな凸凹アイスバーンを自分の力量で滑ることは可能なのだろうか？仲間の力量で全員が無事に滑走して来られるだろうか？とかなり心配になりました。こんな斜面では楽しく滑るなんておこがましい。いかに安全に滑り下りられるかのほうが先に立ちます。



途中、大曾根さんのアイゼンが壊れるというハプニングがあったものの、応急処置でなんとかなり（やはり修理道具は装備に加えておくべきです）、



7合目からは全員で雪の上を歩き、



飯野さんが遅れがちとなったので8合目までは頑張ってもらい、



8合目でどうするか検討して、飯野さんから登った分は滑りたいとの申し出があったので、下山はせず、8合目の山小屋を風よけにして飯野さんに単独待機してもらうことにして、残り4名で山頂を目指すことになりました。



8合目で5名そろって記念撮影。



8合目を出るとすぐに山頂を視界の奥に捉えることができます。



9合目から風は強くなり、ボーダーのわたしは帆を張って歩いているようなものなので、ときたま煽られるような風もありました。でも富士山の風は突如襲いかかってくるのではなく、ゴーゴーと遠くから地鳴りのような音と共に近づいてくるので、音が鳴ったら歩みを止め身構えることができます。だから 20m 程度の風なら危険を感じることもなく乗り切れました。



ビックリしたのは結構な頻度で竜巻が起こっていたことです。目の前で竜巻が出来て、押し寄せたりするから驚きます。富士山の風は本当に特殊です。



9.5合目からはもう一息。山頂の上を雲が綿飴のように糸となり蠢き消えていきます。山頂の風が強い証拠です。

山頂直下の斜度は今までわたしそれなりに急斜面も経験してきたので、怖さを感じるようなものではありませんでした。凍結していれば別ですが、時刻はもう正午を回っていたので、雪はゆるみまったく問題なし。



そして山頂に到着！





驚くのは剣が峰からお釜に滑走した後があったこと。山頂まで板担いで登り、お釜に滑り下りる体力のある人がいることに驚きます。わたしは低酸素が災いして、山頂まででもかなりへばりました。久しぶりに板を重く感じたので、まだまです。

兎にも角にも、いよいよお目当ての滑走です！富士山をこんなにも早く滑ることができtantななんて、ボーダーとしては感無量です。



がしかし、9.5合目までの斜面は波打つアイスバーンで、滑りを楽しむどころではありません。ここは本当に難しく慎重に滑りました。感無量とか言っている場合ではなく、まだまだ余談は許しません。凍結箇所を抜けるまでは慎重に滑りました。



にもかかわらず、ゲレンデのように滑る小林さん。強者です！



9.5合目を過ぎれば、8合目まで快適な滑走が楽しめました。視界に広がる景色が他の山とは全然違います。



8合目山小屋で待機していた飯野さんと合流して、6合目手前まで滑り降りました。皆楽しそうに滑ってました。しかし7合目から下は雪の上に岩が多く、板を傷めないようなルート取りをする必要がありました。



5時20分入山。下山は16時10分。想定をはるかにオーバーする10時間50分行動でした。今回はアイゼンの故障、仲間の不調、自分のへばり、雪がつながってない箇所が1箇所あり、ギアを外してのトラバース、様々な要因があいまってかなり時間を要しました。ともあれ無事下山、なによりです。

◆道の駅みぶ（前夜発）22:00 富士宮口 5合目 1:00（幕営仮眠） 入山 5:20  
6合目 5:40 7合目 7:10 8合目 8:10 9合目 11:00 山頂 13:30—14:00 8  
合目 14:40 富士宮口 5合目 16:10

## 5. まとめ

5月の富士山はやはり危ない山でした。雪の上を登っていると上のほうから「らあ～～～く」と大声で何人も長いこと連呼しているんです。上を見上げると、それはもう弾丸のような速度の岩がかなり上の方から落ちてきます。

中には仲間2人の間を突き落ちていった落石なんてのもありました。あれは当たったら大怪我かまたは死にます。ルート取りで様々な工夫を総動員して気をつけねば、雪のある富士山は運否天賦に命を委ねる山登りになるでしょう。

既に書きましたが、富士山は天気読みが全てです。場合によっては雪面の凍結だけではなく、雪崩の心配もしなければなりません。落石、人の滑落、滑走具の滑落（今回も板を流している登山者がいました）、そして風。富士山は毎年人の命をのみ込んでいる山です。万全な準備と計画の上でトライしましょう。

個人的には板坦いでワントライで 5 月の山頂を踏めるとは思っていなかったので、苦労しましたが今回の山行は成功と言ってもいいかもしれません。自分にはまだまだ鍛えるべきところがあると感じられたし、久しぶりに難しいと感じられる斜面の状態にも出会えた。いい経験になりました。今シーズンはこれにて終了ですが、今回の経験を来季の滑りにいかせればと思います。

(記録 久我隆泰) 以上